◉西栗栖関連年表

年　代	西暦	西栗栖のできごと
古生代（2億年～3億年前）		上莇原、下莇原、栗町、牧で化石出土（フズリナ、サンゴ、貝等）
奈良時代		『播磨国風土記』に栗栖里（廻川、金箭川、阿為山）、美作道
平安・鎌倉時代		
承久３年	1221	後鳥羽上皇、隠岐の島へ配流の途中に美作道を通過、相坂峠で「立ち帰り越しゆく関と思はばや都にききし逢坂の山」と詠じる
南北朝・室町時代		南北朝時代、後醍醐天皇、栗栖荘を楠正行に与える（熊野速玉神社文書）
元弘２年	1332	後醍醐天皇、隠岐の島へ配流の途中美作道（相坂峠）を通過
正平６年	1351	後村上天皇、栗栖荘を熊野速玉神社に寄進
江戸時代		
延宝７年 ７月	1679	牧村の氏子河内神社に神鏡を寄進
元禄10年 10月	1697	栗田・上莇原・下莇原・町屋・鍛冶屋・牧村、三日月藩領となる
文化10年 12月	1813	伊能忠敬、三日月～千本測量
近現代		
明治５年 ５月	1872	飾磨県設置され旧揖西郡は13大区、東西栗栖はその第1小区
明治６年 ６月	1873	牧重（牧）・栗田（町屋）・原亀（上莇原）各小学校設立される
明治８年 11月	1875	3小学校を廃し鍛冶屋に時雍小学校を設ける
明治12年 12月	1879	栗田村と町屋村が合併し栗町村になる
明治23年 ９月	1890	大洪水あり、角亀川の被害甚大、死者5名、田畑流失145ha
明治24年 ３月	1891	赤穂郡矢野村の内、二柏野村が西栗栖村に編入
明治25年 ７月	1892	大洪水あり、特に牧村の被害甚大
大正10年 ２月	1921	西栗栖村信用販売購買生産組合を設立
大正11年 12月	1922	西栗栖村に電灯ともる
昭和９年 ３月	1934	姫津線が三日月まで開通
昭和14年 ４月	1939	宍粟郡菅野村奥小屋が西栗栖村に編入
昭和22年 ４月	1947	新宮中学校西栗栖分校が開校
昭和26年 ４月	1951	西栗栖村・東栗栖村・香島村・越部村・新宮町が合併し新生新宮町誕生
昭和27年 ８月	1952	栗栖池完成
昭和37年 ３月	1962	栗栖水道、給水開始
昭和40年 １月	1965	2級国道姫路倉吉線が国道179号となる
昭和40年 12月	1965	西栗栖地区に農集電話開通
昭和42年 ４月	1967	西栗栖分校を廃止し新宮中学校に統合
昭和43年 ２月	1968	NHK栗栖テレビ中継局受信開始
昭和49年 ７月	1974	集中豪雨による被害甚大、国の災害救助法適用を受ける
昭和50年 ４月	1975	西栗栖幼稚園、開園（旧新宮中学校西栗栖分校跡地）
昭和51年 ９月	1976	台風17号による集中豪雨被害甚大　国の災害救助法の適用を受ける
昭和56年 ３月	1981	西栗栖保育園、完成
昭和58年 ４月	1983	西地区コミュニティセンター完成
昭和59年 ３月	1984	西栗栖小学校、校舎改築完成
昭和61年 10月	1986	西播磨テクノポリス新都市建設起工式
昭和63年 ３月	1988	西栗栖幼稚園、園舎改築完成
平成７年 ４月	1995	播磨高原東小学校、開校
平成９年 ４月	1997	播磨高原東中学校、開校
平成９年 ８月	1997	播磨科学公園都市まちびらき
平成９年 10月	1997	スプリング8が一部供用開始
平成10年 ７月	1998	新角亀トンネル貫通式
平成11年 ３月	1999	県道相生山崎線バイパス（播磨テクノライン）開通
平成15年 ３月	2003	播磨自動車道の播磨新宮インターチェンジ供用開始
平成17年 10月	2005	龍野市・新宮町・揖保川町・御津町が合併し新市「たつの市」が発足
平成20年 ４月	2008	牧運動公園完成
平成21年 ７月	2009	相坂橋竣工

相坂トンネル工事

播磨科学公園都市

西栗栖小学校、JR西栗栖駅付近

ようこそ西栗栖（にしくりす）へ

「自然と歴史と先端科学のまち」

播磨高原東小・中学校付近

発行：西栗栖地区地域活性化委員会
平成25（2013）年12月

①力士の墓碑

山麓に、力士たちによって建立された関取の墓碑がある。本名は不明だが、栗栖川作治という名の関取のもので、大正12（1923）年に建立された。昔、奥小屋八幡神社には土俵があり、相撲が盛んであった。

奥小屋

④勝願寺（しょうがん）

浄土真宗本願寺派の寺院で、本尊は阿弥陀如来立像である。文明3（1471）年の創建で、福原の奥から現在地に移転した。明治9（1876）年の火事により焼失。再建後、明治25（1892）年の洪水で流失。現在の建物は明治32（1899）年の再建である。

牧

⑤香山城（こうやま）落武者の墓

麦子集落の北方山裾にある石仏と五輪塔を交えた一列の墓は、天正8（1580）年に香山城より逃げてきた落武者の墓と伝えられる。牧には香山姓が多く、香山氏の一族がこちらに落ちのびてきたのは事実と思われる。

牧

⑥金照寺（こんしょう）

浄土真宗本願寺派の寺院で、本尊は阿弥陀如来立像である。元は真言宗であったが、天文年間に焼失し、僧阿玄阿闍梨が奥小屋に堂宇を建立して、金照寺と改名し、浄土真宗に改宗した。その後、大正6（1917）年に現在地に再建した。

牧

⑨西勝寺（さいしょう）

浄土真宗本願寺派の寺院で、本尊は阿弥陀如来立像である。天正2（1574）年に創建し、安政5（1858）年に火災により焼失。現在の建物は明治14（1881）年に再建したものである。

時　重

⑩旧三日月藩陣屋門（西法寺）

浄土真宗本願寺派の寺院で本尊は阿弥陀如来立像である。山門は旧三日月藩陣屋門として、現存する唯一のもので、安永2（1773）年の鬼瓦がのっていた。当門の間口が高いのは、藩主が馬に乗ったまま通るためと伝えられている。

鍛冶屋

⑪西栗栖小学校

明治6（1873）年に牧重（牧）・栗田（町屋）・原亀（上莇原）の各小学校が設置され、明治8（1875）年に3小学校を廃止し、鍛冶屋に時雍小学校を設立。その後、改称や合併を経て、昭和22（1947）年に西栗栖村立西栗栖小学校となり、以降、新宮町立、たつの市立と変遷する。

鍛冶屋

⑫動力記念碑

鍛冶屋・時重では、十数日間降雨がないと用水が枯れ、釣瓶（つるべ）で地下水を井戸からくみ上げることが度々あった。これを解消するため大正13（1924）年の大干ばつを機に、動力揚水機を取付けた。これを記念し昭和3（1928）年に動力記念碑が建立された。

鍛冶屋

⑭鍛冶屋八幡神社（かじや）（黒坂八幡）

祭神は応神天皇。由緒・社殿の年代は不詳。境内は約150㎡あり、古木が繁茂し、森を形づくっている。また、推定樹齢約300年以上の「黒坂の大もみじ」がある。氏子は下鍛冶屋・矢ノ原の住民である。

鍛冶屋

⑯栗本実丸氏頌徳碑（くりもとじつまるししょうとくひ）

昭和14（1939）年の栗栖川流域の大干ばつを機に村長の栗本実丸氏が栗栖池の建設を提案。昭和16（1941）年1月に着工し、戦中戦後の停滞もあったが、昭和27（1952）年8月に完成した。同氏は組合長としてこの難工事に尽力、その功績を讃えて当碑は建立された。

栗　町

⑰栗田薬師堂（くりだ）

江戸時代の享保年間に大飢饉のため飢えと病で苦難が続いたが、地域住民は薬師如来を信仰してこの苦難を乗り越えることができた。そのことから「薬師粥」が始まり、現在も正月の祭礼に「薬師粥」の行事を続けている。

栗　町

⑲春名斯文（はるなしぶん）の生誕地

春名斯文（漢詩の大家）は、明治2（1869）年に西栗栖村栗町に生まれた。先祖の墓碑名から菅原道真の一族の江見判官、菅原有範の子孫であることを知り、これに発奮し勉学に励んだ。山裾の春名邸跡には、今も先祖の墓碑が残っている。

栗　町

⑳明専寺（みょうせん）

浄土真宗本願寺派の寺院で、本尊は阿弥陀如来立像である。

仁治年間に書写山円教寺の僧明専が天台宗の寺院として開基した。その後文明9（1477）年に浄土真宗の寺院となった。

栗　町

㉑相坂峠（あいさかとうげ）の碑

相坂峠は、奈良時代の『播磨国風土記』に登場する「阿為山（あいやま）」に由来する地名と思われる。後鳥羽上皇や後醍醐天皇が隠岐の島へ流されるときもここを越している。因幡街道の参勤交代の難所としても知られている。

下莇原

㉒洪水記念碑

明治23（1890）年9月17日明けがた、角亀川は大洪水となり、堤防は全部破壊され、流水家屋4戸、溺死者5名、田畑の流失145haに及んだと記録されている。当碑は、大災害の翌年9月に建立された。

下莇原

㉓和銅開珎出土地（わどうかいちん）

平成11年（1999）6月、下莇原字段で畑仕事中の山本君代氏が偶然発見した。西播磨地域では、初めての出土である。

下莇原

㉔鹿嶋神社（かしま）

当社の創建は詳らかではないが、以前あった金属製の灯篭の文字などから、寛永4（1627）年以前には当社があったと考えられる。祭神は「鹿嶋大明神（毘沙門天）」である。現在の拝殿・舞殿は、平成12（2000）年に再建された。

下莇原

㉖天神山城址（てんじんやまじょうし）

上莇原の西方からのびる尾根上に城郭遺構が見つかったのは、平成5（1993）年のことである。城址からは終戦直後に石で蓋をした小刀が入った壺が出土したことが今に伝わっている。城内には天神をまつる祠がある。

上莇原

㉗浄教寺（じょうきょう）

当寺が上莇原村に移ったのは慶長6（1601）年のことで、浄土真宗本願寺派に属し、本尊は阿弥陀如来立像である。本堂は平成24（2012）年11月にバリアフリー化した近代的なドーム型に建て替えられている。

上莇原

㉙旧角亀（つのがめ）トンネル

当トンネルは、昭和48（1973）年5月に完成した。峠を越した辺境の地が、当トンネル開通によって、もたらされた恩恵は計り知れない。

当トンネル上の昔の峠にあったお地蔵さんは、地元有志で角亀の麓に移転された。

角　亀

㉜須賀（すが）神社

由緒は不明。現在の社殿及び幣殿は明治14（1881）年に新築され、祭神は須佐之男命を祀る。社殿内には内宮と外宮があり、ご神体は円形の石で、氏子は特に崇敬している。

境内には椋の巨木がある。

二柏野

㉞三濃山（みのうさん）

たつの市、相生市、上郡町の境に位置する山で西播磨丘陵県立自然公園に含まれる。標高は508.6mで、北側には播磨科学公園都市が広がる。山頂付近には寺院があり、そこへ至る山道はハイキングコースとなっている。南側には瀬戸内の雄大な眺望が広がる。

二柏野

㊱兵庫県立粒子線医療センター

平成13（2001）年に陽子線治療と炭素イオン線治療の両方が行える世界初の施設として開設された。開院以来、治療できるがんの種類を増やしており、平成24（2012）年12月現在、11種類のがん治療が可能となっている。

光　都

㊳播磨高原東小・中学校

両校とも、有名な建築家安藤忠雄氏の設計で、小学校は平成7（1995）年4月に開校し、校訓は科学の光、自然の光、人間の光を表す「輝」である。中学校は平成9（1997）年4月に開校し、校訓は「英知を磨く、一人一人が輝く、未来へはばたく」である。

光　都

西栗栖おもしろ探検マップ

兵庫県たつの市新宮町

西栗栖 Nishikurisu

奈良時代の和同6（713）年に国から「各国の産物・地名の由来・古老の話などをまとめた書物を提出せよ」との命令が出され、それを受けて作られたのが『播磨国風土記』で、「西栗栖」という名前は、その中に登場する「栗栖里」に由来している。（⓯栗栖里の碑を参照）

西栗栖は、たつの市の北西に位置しており、東西約4㎞、南北約12㎞、面積38.84km²あり、面積はたつの市の18.4%に相当する大変広い地域である。当地域の中央には南北に大きな山脈が通り、分水嶺をなして、その東と西に栗栖川と角亀川が流れており、自然環境に恵まれた地域になっている。

当地域の丘陵地帯では、昭和61（1986）年10月に西播磨テクノポリス新都市（播磨科学公園都市）建設起工式が行われ、「人と自然と科学が調和する高次元機能都市」をトータルコンセプトに、快適な都市空間が形成されており、磯崎新氏、安藤忠雄氏などの世界的に有名な建築家やデザイナーの建築物は多くの人々を魅了している。

さあ、このマップを片手に「西栗栖」の隠れた名所・旧跡を巡る探検の旅に出発しよう。

㉕珎浪神社（しんなみ）

通称「やくろだい」と言う。明和3（1766）年に創建され、今の社殿は、平成2（1990）年に遷座されたものである。雨神として近隣近在から崇められている。2枚の雨乞絵馬が現存し、大変貴重なものである。

下莇原

㉘長谷（ながたに）ダム

播磨科学公園都市の開発に伴う長谷川の水量調整と農業用水の貯水等を目的として、昭和63（1988）年から平成3（1991）年までの4カ年の工事で完成した治水ダム（総事業費約24億円）である。

上莇原

㉚ログハウス

平成25（2013）年3月に発足した「西栗栖地区地域活性化委員会」が中心となり建設した。地域の子どもたちが自然体験等を通じ、豊富な地域資源に触れ合いながら、住民との交流を図るための活動拠点である。

角亀

㉛播磨新宮 I.C

播磨自動車道（中国横断自動車道姫路鳥取線）の開通によってできたインターチェンジで、これにより京阪神地区から播磨科学公園都市へのアクセスが大変便利になった。
平成15（2003）年3月から供用を開始している。

角亀

㉝本覚寺（ほんかく）

浄土真宗本願寺派の寺院で、本尊の阿弥陀如来立像は聖徳太子の作と言い伝えられている。当寺には親鸞上人53歳の時の染筆と伝える南無阿弥陀仏と刻した念仏塚や大石良雄手植えと伝えられている紅梅などがある。

二柏野

㉟大型放射光施設 スプリング8

播磨科学公園都市内の西部にある。放射光と呼ばれる非常に明るい光を使って、原子レベルの微細な構造や働きを観察することができるスーパー顕微鏡である。
平成9（1997）年10月から供用を開始している。

提供：理化学研究所

光　都

㊲栗ノ木谷公園

播磨科学公園都市にある市営の公園で、面積は約13haある。その半分がもともとあった山林で、中央の芝生広場「出会いの広場」をはさんで南山と北山があり、それらを連ねた形で園路が整備されている。

光　都

②奥小屋八幡（おくごや）神社

約300～350年前、山崎八幡神社から分神して鎮座し、祭神は応神天皇で、御影は金幣である。
本殿は明治30（1897）年頃に改築した。境内には幹回り390㎝の大銀杏や椋の木がある。

奥小屋

③栗（くりす）栖池

栗栖川は水無川と呼ばれており、干ばつによる被害を解消するため、戦中戦後に11年の歳月と多くの労力や資材を費やし、昭和27（1952）年8月に栗栖池の難工事が完成した。これにより、栗栖川には常時水が流れ、栗栖池から受ける恩恵は大きい。

牧・奥小屋

⑦河内（かわち）神社

祭神は応神天皇・天津児屋根命で、天安3（859）年に九州の宇佐八幡宮より迎えたと伝えられる。秋祭りの日には、「よい、よい、ばあ」と唱えながら行列を作って頭人が宮入りする。境内の大イチョウや裏山のシラカシ林は、市指定の天然記念物である。

牧

⑧牧（まき）運動公園

当公園は、国庫補助事業による県営中山間地域整備事業と市単独事業で施設整備され、平成20（2008）年4月に完成した。施設内には、野球場や多目的グラウンド等があり、地元住民をはじめ、近隣の地域から多くの人々が訪れている。

牧

⑬JR姫新線西栗栖駅

相坂トンネルが貫通し、播磨新宮駅から三日月駅間が延伸開業したのは、昭和9（1934）年3月24日のことで、この時、西栗栖駅は誕生した。姫新線は、昭和11（1936）年に姫路駅～新見駅間が全線開通となる。

鍛冶屋

⑮栗栖里（くりすのさと）の碑

『播磨国風土記』によると、第16代仁徳天皇より渋皮のむけた栗の実（栗子「くりす」）を賜り、それを当地に植えたのが「栗栖」の地名の始まりと伝えられている。栗町と鍛冶屋の境にある道路公園に栗栖里の碑がある。

鍛冶屋

⑱椋（むく）の木（アオバズク）

栗栖川の左岸に位置する当椋の木は、推定樹齢が約400年～500年と考えられる。7～8年前頃より渡り鳥のアオバズクが毎年飛来している。

栗　町

［移動距離の目安］
◎西栗栖駅～播磨科学公園都市　4.8km
◎西栗栖駅～栗栖池　5.25km
◎西栗栖駅～奥小屋　5.5km
◎西栗栖駅～上莇原　4.75km